埼玉県退職校長会会報

題字・石田孝作
第165号
平成31年1月

1、2　巻頭言
3～支部別教育推進協議会
9　関ブロ東京大会報告
10　第1回理事会報告
11～一人一言
17　現・退校長会役員研究協議会
18　囲碁・ゴルフ大会
19　長寿会員への寿詞贈呈
20　文芸・編集後記

会員のニーズと活性化

埼玉県退職校長会　副会長　井上　清

埼玉県退職校長会は、平成26年度に結成50周年を迎え記念総会を嵐山町国立女性教育会館で開催しました。会員数も今年度3700名を超え、歴史を重ね先輩各位のご努力のもと現在があります。

県の定期総会開催は、先輩の叡智により開催地区巡回方式で、総会時に、講演会、アトラクション、美術展、そして懇親会があります。

次年度、入間支部が担当します。そのための準備として会場の決定がありますが、総会と懇親会を同じ会場での設定には少々苦労しました。

駅に近く多人数の総会の行事となると経費もかさみ、会場設定の抽選会など常にスケジュールを設定しなければなりません。しかし、総会の場は、各地区の活性化のためには、会員の知恵と努力が結集できるメリットがあります。各地区での会場設営には苦労があります。公共施設のシステムが多様化しているので従来の方式では済まないようです。

「会員のニーズと活性化」のための試みとして入間支部の取組を紹介します。

一つの試みとしてアンケート調査を実施しました。ねらいは、「活力ある組織運営・魅力ある組織活動を推進するため、諸活動の現状・課題を把握し今後のあり方を探る」を目的としました。

調査項目は、1会則、2組織、3財務状況、4事業、5専門部会、6その他についてです。回答は①今までによい②どちらでもよい　③改善を要する、としました。

意見として、①代表理事会の年2回の開催　②総会は午後開催　③代議員制の委任状の設置　④全員研修の検討　⑤新入会員加入促進リーフレット等の検討、などが挙げられました。

課題としては、①支部総会は代議員制をとっているが会員の意識高揚につながっているか　②県情報を交えて意見交換がほしい　③財政面で県会費の減額を希望する　④年2回の理事会での懇親会は1回でよい　⑤他班の活動の様子を知りたい、などです。また、会員の声を受けて会員の志向は何か、何に喜びを感じているか、を踏まえ、支部として次年度に向けて新入会員との懇談会の設置、県の情報を受けての意見交換など具体的に取り組みたいと思います。

人生百年時代への自問自答

北埼玉支部長　大嶋　伸之

日本人の平均寿命は、80歳（女性87歳、男性81歳）を超え百歳以上の方は、全国で6万7千人を超えています。正に人生百年時代の到来です。

ではどう歩んで行ったらよいか。皆様は、どうしていますか。

一つ目の自問自答

「大事なことは何か？　やはり健康だな」

生き続けるためには、まずは、健康維持。私は、二十代から腹筋・腕立て伏せ・鉄アレイでの自己流の筋トレを継続中です。お陰で地域の方とソフトボールを楽しんでいます。いつまでも活力ある日常生活を送るためには、健康寿命がカギです。これからもいい汗を流していきたいです。

まず、健康はクリヤー。

二つ目の自問自答

「健康だけで、百年時代を生きられるの？　やはり、やりがい・生きがいが欲しい」

小さいことでも何か人の役に立てれば、生きる気力も高まってきます。

現在、仲間と小学生対象に「陸上運動教室」を開催して、30年以上になります。毎月2回行い、今年は192人います。その中には外遊びが苦手な子、友だちが少ない子、運動が大好きな子と、さまざまです。少しでも運動に興味を持ってもらいたい、みんなと運動する楽しさを体感させたい、子どもたちの運動への旺盛な欲求に応えたいと、毎回やりがいを感じ、活動しています。

三つ目の自問自答

「夢はないの？　20年後の未来社会を見たい」

あらゆる分野にイノベーション（技術革新）が起こり、今まで経験したことのない快適な未来社会。一方、今、パワハラ、長時間労働、高齢者の心に付け込む特殊詐欺、あおり運転、いじめ等、怒りが込み上げてきます。本物の豊かさとまともな未来社会を見たい。

最後に、元気に長生きするには、秘訣があるようです。

・後ろ向きなことは考えない
・できることは自分でやる
・ちょっとだけ無理をする

まずは朝一番に鏡を見て、不機嫌な顔はやめましょう。

そして、今日も笑顔を心掛け、スタートしたいですね。